

◆ 特別講話①～データを分析して仮説を立てる～

1月12日(金)一般社団法人次世代教育・産官学民連携機構の市野氏を講師にお招きし、データに関する講話をしていただきました。「こども 20 年変化」の調査データより「あなたにとって遊びと勉強とでは、どちらが大事だと思いますか」などのアンケート結果を 1997 年と 2017 年で比較し、生徒たちはデータの結果から何が読み取れるのか、時代背景をもとに考えていきました。

過去のデータと最近のデータを比較することでわかってくる傾向や社会が子供たちの考え方に大きく影響を与えていることが分かりました。なぜこうなったのかや、次のデータがどうなるのかが気になり、楽しくペアと話し合うことが出来たので良かったです。

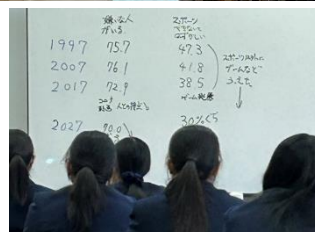


データを見るだけではなく、そういう傾向になったわけを社会全体の流れを踏まえて考えるというのがとても新感覚で面白いと思った。他のデータの結果についても理由を考えてみたいと思った。

変化している事実を読み取るだけではなく、そこから考えられる背景を考察する方法、手順を知ることができた。



データはデータでも、20 年であんなにも結果が変わっていたことに驚いた。ペアとそうなった原因を話し合うのも、それぞれの違った意見があって面白かったし、予想と全然違う結果だったとき、なぜ?というさらなる疑問も生まれた。こういうなぜの積み重ねなんだと思った。データからの予想や様々な人の意見は本当に大切なことだと思った。



◆ 特別講話②

～サンゴ礁に迫る危機を地球規模・地域規模の環境変化から読み解けるか～

1月22日(月)国立研究開発法人産業技術総合研究所より井口亮氏(本校一期卒業生)を講師にお招きし、サンゴ礁についての講話をしていただきました。サンゴの話はもちろんのこと、講話のはじめには「研究者として大事なこと」を講師の実体験をもとに話していただき生徒は興味深そうに耳を傾けていました。



海洋酸性化という言葉をはじめて聞いたけどそれは地球温暖化にもつながっていて、私たち人間が原因で起きているものだということがわかった。綺麗な海を守っていくには、二酸化炭素を減らす必要があるの、そのために自分ができるとは何か考えていきたいと思った。

自分たちの住んでいる沖縄に身近なサンゴ礁の白化現象などを例にあげた地球温暖化などの話を聞いて、とても有意義な時間を過ごすことが出来たと思った。ぼくは「さんごの島」という意味をもつうるま市出身なので、サンゴをとっても大切にしたいと思った。

サンゴの白化にも地球温暖化が関係していることを初めて知った。酸性化した海に塩基性のものを混ぜて中和させる研究に興味を湧いた。

海洋の二酸化炭素濃度を下げるための方法はマングローブ林を用いて二酸化炭素吸収量を増やすのが良いと思いました。沖縄にある私たちの大切な美しい海を守るためにもサンゴについて調べてみて、移動手段はなるべく徒歩、買い物ではマイバックを持ち歩いて行くなどできることから組んでいきたいと思いました。